



タイム



学校だより No.6
令和6年6月13日
文責 日高 智明

【教育目標】 確かな学力と豊かな心をもち たくましく生きぬく児童の育成
～夢と希望をもち よく学ぶ春日の子～

【今年度の合言葉】 「感動～感じて動く～」

学校 HP



いのちかがやく強調月間

6月は、「いのちかがやく強調月間」です。昨年度までは、「いのちみつめる強調月間」と言っていましたが、さらに子供たちが自分のよさを感じのびのびと育っていくことを意図して名称が変更になりました。5月31日にいのちについての校長講話を行いました。今回は、子供たちと対話しながら話を進めていきました。その内容を紹介します。

なんの写真かわかりますか？

そうです、ツバメのひなの写真です。

どうして、ひなはこんなに大きな口を開けているのでしょうか？

親鳥からえさをもらおうとしているのですね。

ツバメなどの鳥は、ひなの間は、親鳥がもってきたえさ

をもらって育っていきませんが、親鳥は1時間に何回くらいえさをとってくるか知っていますか？

だいたい1時間に40回、1日にすると520回だそうです。

1分30秒に1回えさをとってくることを、朝の6時から夜の7時までの13時間ずっと繰り返しているそうです。おどろきの数ですね。

あんな小さな体のどこに、こんなエネルギーがあるのでしょうかね。本当におどろきです。

次は、なんの写真でしょう？

これもある鳥のひなですが、なんの鳥のひなかわかりますか？

そうです、ペンギンのひなです。

このペンギンは、コウテイペンギンといって、南極に住んでいます。

南極は、とても寒い場所で、夏の気温がマイナス1度、冬はマイナス20度くらいで、夏でも冷蔵庫より寒く、冬は冷凍庫よりも寒いことになります。ちょっと、想像するのも難しいくらいの寒さですが、ホースから出した水が、そのまま柱のように凍って固まるそうです。

そんな寒い中でひなをどうやって育てているのでしょうか？

お母さんペンギンが卵を産むと、お父さんペンギンは地面につけないように気を付けて、自分の足の上に卵を乗せます。

卵が地面につくと、卵が凍ってしまってもうひなが生まれなくなるからです。

卵からひながかえっても、ずっと足の上に乗せ、自分のおなかの下で温め続けます。



お母さんペンギンがえさをとって、戻ってくるまでの4か月の間、お父さんペンギンは何も食べずに過ごすこともあるそうです。

何も食べないだけでなく、冬にはこんなすごい吹雪がふくことは珍しくないらしく、寒さにも耐えながらひなを冷やさないようにただただがまんするそうです。

ツバメやペンギンなどの親は、なぜここまでがんばれるのでしょうか。

みなさんは、なぜだと思いませんか。

「自分の子がかわいいから」「大きく育ててほしいから」「大切な命だから」。そうですよね、みなさんが言うとおりだと先生も思います。

これに加えて、先生は自分が親になってから気づいたことがあります。

それは、命のバトンをつなぐということです。

自分の命は、自分のものです。でも、自分だけのものではありません。

自分の命は、親からもらったもので、親はその親からもらった命です。

あなたの命にたどり着くまでには、ものすごい数の人たちの命がバトンとして受け継がれているのです。

その途中のだれか一人でもぬけていたら、今のあなたはいなかったのです。

今のあなたの命は、これまでのたくさんの人の命が作りだしてくれたものであり、これからあなたの命のバトンを受け継ぐ人の命のもとになっているのです。

だから、あなたの命は、あなたのもですが、あなただけのものではないのですよ。

そして、あなたの命がとても大切なものであるのと同じように、友達やまわりの人の命もとても大切で、だれもが命のバトンを受け取り、次へ渡す役割があるのです。

当然、人だけではなくツバメやペンギンのように命ある生き物すべてです。



講話の最後に、学校司書の恒川先生が子供たちに読んでほしいと選んでくださった本「いのちのまつり」「あかちゃんてね」「つながってる」「おかあさんが おかあさんになった日」「いのちは見えるよ」の5冊を紹介しました。子供向けの本ではありますが、大人が読んで共感したり、考えさせられたりする本です。お子さんと一緒に読まれると、いのちについて話すきっかけにもなると思います。

【心を耕す読書】

5月15日発行の「タイム」で、低中高学年の年間目標読書量をお知らせしました。

4月からの全校の平均読書量は、一人当たり6冊になっています。運動会などの行事があり、子供たちも忙しかったので、今のところ読書量は少なめですが、これから読書にも取り組んでくれると思います。ご家庭でも読書について話題にしていただけると助かります。

